
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 317 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2011.08.25 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1190 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 往古の面影を伝える水郷の田園風景と自然資源 石川秀勇

<速報> 山崎農業研究所総会記念シンポジウム (2011/07/23)

2) 「福島—希望への道筋を探りながら」

「大地を守る会」 農産グループ長 戎谷徹也氏

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.125』発行されました

<編集後記> 「そこに、いつも、あたりまえにある」ことのありがたさ
——宇根豊『田んぼの生きものと農業の心』

<巻頭言> 往古の面影を伝える水郷の田園風景と自然資源

“水郷”というと、女船頭さんの田船をこぐ姿の映像などで、茨城の潮来
(いたこ) が全国的に有名である。梅雨の季節にはアヤメなど花見どきとなり、
訪れる人々の賑わいをみせているようだ。

そんな風景を現出し、ミニ地区とはいえ、水郷と呼ばれるところは全国各地
にあるだろうと思われる。

利根川中流域の平野部、埼玉県側の市町村の一つ・加須市の中央部に位置す
る、浮野(うきや)の里も、そのようなところである。ここは、平成7年に国
土庁の「水の郷百選」にも設定され、市や地域住民により憩いや安らぎの場と
して保全に努められている。

その特色は、田んぼ地帯の一面の低湿原<浮野>の箇所に関東平野ではほと
んど絶滅したトキソウなど希少植物が自生し、周辺にはかつての“武蔵国の面
影”を伝える田園風景—田堀、クヌギ並木、屋敷林等—が見られる等、自然と
歴史的資源を残していることにある。

今年6月末、地区の人たちがつくる<葦の会>主催による「浮野の里・あやめ祭り」が開かれていて、ひと時を楽しんできた。

葦原の中や水堀の辺りからか、ボーボーと鳴くウシガエルの声の盛んさにびっくりした。その時のことを振り返って考えてみると、豊かな自然の中で、生き物たちも健康的に生息しているに違いないとの印象のほうが強い、というべきだろう。

三月の東日本大震災の被災地域では、こうした掛け替えのない貴重な歴史的資源、自然資源を、津波に呑み込まれ失った場合も少なくないと思われる。犠牲となった人命、破損をみた生産基盤等に対してとともに、地区の人たちにあってはこのようなものの滅失に対しても、無念な思いを深めていることが察せられる。

石川秀勇

山崎農業研究所会員、千葉県野田市在住

yamazaki@yamazaki-i.org

<速報> 山崎農業研究所総会記念シンポジウム

期日：2011年7月23日（土）

場所：東京都新宿区四谷3-5 不動産会館ビル5F

テーマ：「東日本大震災と農業・農村」

話題提供者：

1) 「農地、農業施設被害とその対策」

山崎農業研究所 幹事 渡邊 博氏

2) 「福島ー希望への道筋を探りながら」

「大地を守る会」 農産グループ長 戒谷徹也氏

3) 「風評被害（東海JCO～フクシマ）を乗り越える経営力を求めて」

農業生産法人てるぬまかついち商店（甘藷・干しいも生産・加工）

代表 照沼勝浩氏（茨城・東海村）

2) 「福島ー希望への道筋を探りながら」

「大地を守る会」 農産グループ長 戒谷徹也氏

「大地を守る会」は有機農業を広めることを使命として、1975年に設立されたNGO。1977年に株式会社も設立して現在は両方で運営している。全国から登録された農業生産者からの農産物を多くの生協に卸して出荷販売している。

3月11日の東日本大震災のような大災害でも地震、津波までであれば、今までの経験で復興の道筋は何とかなるが、今回のような原発事故の対応に苦慮している。

復興支援には被災者が最もほしいものを贈らなくてはならない。せっかくの贈り物も、かえって困るものもある。地元の最も望むもの送る。まずは義援金を送ることに努力している。そのプロジェクトの一つとして商品価格に義援金を加えた「義援金付き」販売である。

さらに福島、茨城、宮城、岩手の生産物を買って、生産者を直接支援する「食べる復興」や「復興支援セット」の名前で支援協力も呼びかけている。「福島と北関東の農家、がんばろうセット」と称した企画によって消費者が直接、生産者を励ましている。このようなプロジェクトには多くの方々から、励まし、応援が寄せられている。このほか、現地の生産者から、直接、商品購入してもらおうよう、多くの消費者に呼びかけている。さらに「大地を守る会」では被災して職を失った生産者の世話、あるいは、ワカメ栽培の技術支援のため地方への一時移住などの世話をする受け皿になっている。

原発汚染地域での対応は特に風評など、多くの難問がある。先ず、3月の時点で放射能測定体制をとった。放射能観測はチェルノブイリの事故以来継続してきたが、今回の事故でも、いち早くセシウムは観測された。しかし問題はその基準をどこに取るかにある。自分たちだけで決められない問題である。しかし一定の基準を設けざるをえなかった。国の基準でOKとは言えない。全国の生協で連絡を取って統一見解を決めなくてはならない。

われわれは、とりあえず「安全値の限界」を「我慢量」として考えたい。安全・安心の考えである。そこで、放射能自主測定検査を行っている。入荷検品時に感度の高いシンチレーション・サーベイメータによる青果物全品目および一部加工品にはスクリーニング検査（選別検査）をしている。とくに子ども達のための安心野菜セットには、精度の高いガンマ線スペクトロメータで測定し、特別に厳しくした限界値のもとで検査している。さらに外部機関に依頼してサンプリング測定（抽出測定）の結果を公開している。風評を未然に防ぐために

も結果の公開は意味がある。この汚染問題は長い戦いとなろう。

有機農業には稲わら、下水泥土、魚粉なども関係してくると思われる。風評を防ぐために、検査証明書を商品に付けるなどの対策がある。しかし、恐れているのは、消費者が実際の安全値でも安心出来ない、というギャップの生ずることである。事実を正しく知らせること、測定値を公開、開示することが必要である。そして、この安全性の裏付けには科学的な説明を要する。安全・安心は有機農業の基本であるので、この前提を、いかに守るか、これから長い戦いが始まる。国任せでなく自分たちも生産方式、基準を作り有機農法の取り組みに邁進し、希望への道筋を探りたい。

(文責 安富、田口)

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.125』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.125』が発行されました。

今号では、東日本大震災を特集しています。

研究所ホームページから、目次を見ることと、記事の一部のダウンロード（無料）ができます。また、ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

<http://www.yamazaki-i.org>

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

東日本大震災と農業・農村復興……安富六郎

〔特集〕 どう向き合うか 東日本大震災

・被災地を歩いて一災害の被害者から復興の当事者へ……小泉浩郎

・東日本大震災による農地と農業インフラの被災状況……渡邊 博

・土壌の放射能汚染をどう考えるか

一現場での対応を中心に……編集部・森敏

・エネルギーは社会の根本問題……関 曠野

・震災から森と住まいの文化を考える……大内正伸

・大震災と住民自治……鳥越皓之

・「持続型地域」建設ビジョンをどう描くか……千賀裕太郎

・引き受けるものと選択するもの……宇根 豊

<編集後記> 「そこに、いつも、あたりまえにある」ことのありがたさ
——宇根豊『田んぼの生きものと農業の心』

夏休みを利用して実家に日帰りですぐ帰省した。実家のまわりには田んぼがある。家の庭には家庭菜園もある。しかし純農村というわけでもない。100メートルも行かないところにコンビニもあるし、田んぼを宅地化したところも多い。

とはいえ、実家に帰ると落ち着く。ちょうどお盆の頃で、日本全国うだるような暑さのときであった。実家は日本でも有数の暑さで知られる熊谷市のとなり町にある。家のなかでも、ただ座っているだけで汗が流れてくるほどであった。

でも落ち着く。ふるさとなんてそんなもの、と言い切るだけではおもしろくない。そこで宇根豊さんの『田んぼの生きものと農業の心』（NHK ラジオテキスト、2011年）を読むことにした。

この本は「NHK ころをよむ」のテキストなのだが、宇根さんは番組で「そこに、いつも、あたりまえにある田舎の自然や風景のこと」を話そうと書いている。

「そこに、いつも、あたりまえにある田舎の自然や風景」。ああ、これかもしれない、と思った。宇根さんは、東日本大震災で役場ごと移転することになった福島県双葉町の井戸川町長が、移転予定地の廃校を下見し「遠くに田んぼが見える。ほっとする」と移転を決意したという話を紹介する。そして「普段はそこに、いつも、あたりまえにあるものが失われると、ほんとうの価値」がみえてくると言う。

九州に暮らす宇根さんは「私は幸いなことに、福岡県の在所でいつものように、毎日田んぼに出かけていくでしょう」というが、考えてみればわたし自身が実家に帰れることも、ふるさとの景色のなかに身をゆだねられることも「幸い」といえるのではないか。

東日本大震災から学ぶべきこと。それは「そこに、いつも、あたりまえにある」ことのありがたさなのかもしれない。

宇根豊『田んぼの生きものと農業の心』

<https://www.nhk-book.co.jp/shop/main.jsp?trxID=C5010101&webCode=69107682011>

NHK 出版

A5 判、並製、170 ページ、800 円（税込み）

ISBN978-4-14-910768-4

2011 年 6 月発売

2011 年 08 月 25 日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

（発売：2008/11 定価：1,575 円）

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

- ◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か
<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>
- ◎森川辰夫さん
NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報
<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>
- ◎日本農業新聞／書評
(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)
<http://yamazaki-i.org/>
(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)
- ◎小谷敏さん (大妻女子大学)
日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)
<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>
- ◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)
月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫
<http://yamazaki-i.org/>
(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)
- ◎塩見直紀さん (半農半 X 研究所、執筆者)
ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。
<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
 - 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
 - 3、1回1テーマ、10行位に。
 - 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
 - 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。
<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>
- インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 318 号の締め切りは 09 月 05 日、発行は 09 月 08 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 317 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2011.08.25（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****